



国酒の行方

株式会社 日本経済研究所 地域本部

常務執行役員 本部長 佐藤 淳

清酒の飲まれ方が変わってきました。
普段着の国酒から、特別な日の国酒へ
ケの酒からハレの酒へ
飲兵衛おやじの酒から、若くて美人の酒へ
国酒の行方をレポートします。

高級清酒（特定名称酒）が好調です。よく報道されるように、輸出だけが牽引しているわけではありません。むしろ内需の高度化です（表）。

清酒で輸出だけがクローズアップされがちな原因をいろいろ考えてみると…

- ①内需統計の不備（好調な高級酒と減少が続く大衆酒が区分される統計が出るのは一年後で年計のみ）
- ②清酒輸出は貿易統計で毎月確認が可能
- ③日本は輸出立国であるという信念
- ④政府の農林食品輸出1兆円目標
- ⑤蔵元が力をいれている

なお、清酒の輸出を軽視している訳ではないので誤解なきようお願いします。足元でも好調ですし、来年のミラノ万博でもスポットライトが当たるでしょう。将来的には、フランスワインのように日本を支えるところまでいくのではないのでしょうか。

でも今は内需の変化に注目すべきです。具体的には、ケの酒からハレの酒への変化です。伝統への回帰です。

清酒はハレの日のドリンクでした。お祭りなど特別な日に振る舞われたのです。それがいつの間にか、いつでもどこでも清酒が入手できる時代となりました。このような、ケの酒時代をもたらしたのは、1922年、鈴木梅太郎博士の合成清酒の

発明です。

清酒の製造コストは、この発明以降、エタノール（≒醸造アルコール）コストの関数となります。清酒は一気に大衆化しました。特に戦後高度成長期にかけて。ピーク時には今の3倍も飲んでいました。量的な国酒時代といえるでしょう。

高度成長期以降、量的には減少に転じます。豊かになった日本人は質を求め始めたのですが、醸造アルコールではなく、いい米をたくさん使っていい酒を造ると、非常に高くなります。高度成長期とはいえ、さすがにそこまでのコスト負担力は日本人にはありませんでした。何しろ今の3倍も飲んでいたので。高い酒では財布がもちません。

結局いろんな工夫をしてなんとか安価でかつ質の高い酒を実現してきました。コスト制限された原料事情を考えると非常に素晴らしい酒です。但し、豊かになった消費者からは中途半端なものと思われたのでしょうか。どんどん減少し、消費量はピークの3分の1まで少なくなりました

このままでは清酒は消滅する。関係者のなかにはそう思いつめる人も少なくないような状況が21世紀の初頭まで続きました。

ところが、そのような状況は突然変わったのです。高級清酒が売れ始めたのです。

高い酒です。東日本大震災に伴う被災地支援購

買が、近年品質向上が著しかった高級清酒を認識する契機となったのです（図）。

これらの結果、清酒は、居酒屋で飲む大衆酒、日常的な酒から、特別な祝いごとや、高級な寿司店で飲む酒に変わりました。

そんな状況を示した意識調査があります。宝酒造が2013年の9月に実施した、アンケート調査です。20年前と比べて、日本酒は、特別な時だけに飲む（倍増）高価なお酒（五倍増）とする回答が激増しています。

量的な国酒の時代から、象徴としての国酒の時代が変わったのです。ケの酒からハレの酒に変わったのです。その一方で、若い世代ほど（20代の4割）、今後日本酒を飲む量が増えるとも回答しています。

毎日の晩酌はチリワインや芋焼酎のお湯割りでも、特別な日には清酒を頂く。おやじがクダをまく酒から、美人がワイングラスで乾杯する酒になったのです（単なるイメージですが）。飲まれる酒としてもそのほうが幸せかも知れません。

結果として、大衆酒は減少し、高級酒が増えています。合計量ではトントンです。一見、いいのか悪いのかわからない状況ですが、高級酒は高価ですから、金額的には伸びているはずですが、金額のデータがあればいいのですが、ありません。

高級酒から大衆酒まで手掛けている宝酒造の売

り上げをみるのが、業界観察としては最も手っ取り早いです。上場しているので、金額データが開示されます。

さて、その宝酒造の決算（2013年度）をみますと、清酒部門は前年比8.2%の増収です。高級酒、大衆酒、合計の数字です。今年度は、特別なスパークリング系が牽引するので11.9%の伸びを見込んでいます。高級酒にフォーカスする方が、蔵元の経営には良い時代なのでしょう。

飲兵衛の庶民にとっては厳しい時代です。原料価格が下がれば高級酒も手頃になるかも知れませんが、米の関税を下げ、その分所得補償を手厚くする政策がとられれば別ですが、関税を死守してMA米を増やす方向だとすると、高級酒の原料価格は上がりません。

残念ながら、高級化した清酒は、ますます庶民から離れるでしょう。当分の間、より高級である純米吟醸が伸びて、大衆酒に近い本醸造は減るとみられます。

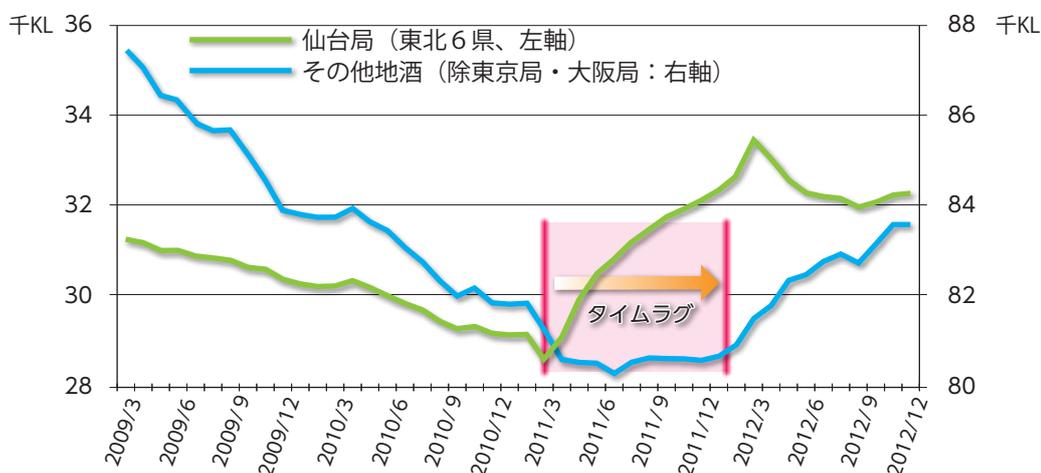
皆様にハレの日が増えることを祈念します。

表 清酒製造量と輸出量 (KL)

	特定名称酒 (高級酒)	普通種 (大衆酒)	輸出
2011	190,500	408,395	14,156
2012	199,797	394,491	14,280
増減	9,297	▲13,904	124

出所：国税庁「平成24酒造年度における清酒の製造状況等について」、財務省「貿易統計」

図 高級清酒出荷推移（特定名称酒）



(注) 直近12ヶ月累計推移 出所：日本酒造組合中央会まとめの概数より作成